

平成30年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。
本年度重点目標	1 各類型コースの充実 2 学力の向上 魅力ある授業づくり 3 開かれた学校づくり(学校開放・説明会・体験入学の充実・地域への貢献)

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員)	4名
生徒	1名
事務局	2名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

学校自己評価					
番号	現状と課題	年度目標	年度目標	年度評価(平成31年3月31日現在)	
				具体的方策	方策の評価指標
1	大学進学希望の増加をコースとしてどう対応するか。 ○S特、特進(目標) センター試験、一般入試での合格を目指している。また、合格できる大学より行きたい大学への合格を目指す。さらに入学時の目標を下げず、上げられる指導をしていく。 ○特総(目標) 推薦でも一般受験でも大学受験が可能な力を身につけさせ、よりよい進路実現の可能性を高めていく。 ○α、β(目標) センター試験 一般入試 AO 推薦入試、就職など様々な進路希望に対応して、多様な入試に対応するため小論文指導面接指導の充実を図る。さらに部活動など得意分野での進学実績の拡大を目指す。 ○2020年大学入試に向けての研究 ○推薦による大学進学をした生徒であっても、進学先での授業に対応できる力を身に着けさせる。	進路実現への取組(各コースの目標や予定された補習・行事を行う) ○S特、特進は放課後の補習、個別指導、休日補習、長期休業中の補習の充実。 ○受験サプリの導入。 ○GTECやTOEIC、英検、漢検の資格取得に努めAO入試、推薦入試対策とする。 ○βは平日の希望者補習、長期休業中の補習を実施。 ○公務員模試の実施。 ○AO入試、推薦入試に対応する講座、模擬試験の実施。 ○国立大学のAO入試や公募推薦などの研究。 ○2020年大学入試へ向けての研修等への参加。 ○部活など得意分野での進路指導強化。 ○学力が担保される推薦基準の研究と見直し ○各教科、学力の定着を見ながらの指導実践	○東大、京大、医学部、東工大、一橋大合格1名以上。 ○旧帝大合格2名以上。 ○国公立合格12名以上。 ○早慶上理国合格20名以上、GMARCH合格40名以上。 ○センター試験、一般入試での合格率の向上。 ○AO入試、推薦入試合格率の向上 ○行きたい大学に合格できたか。	○旧帝大としては、東北大学1名の合格にとどまり、東大、京大の合格には至らず、目標には達しなかった。しかし、現役での国立医学部(新潟大学)に合格を出した。 ○その他の国公立としては、群馬大学2名、信州大学1名などを初めとした10名であったが、例年に比べると数としては減少に至ってしまったが、入学時のスタートの成績を考えると検討に値する。しかし、S特進の生徒の実績が欠けているのが反省点である。 ○早慶上理についても、5名の合格に留まり、昨年に比べ大きく下回っている。原因としては、S特進で合格が獲得できなかったことと、昨年に引き続き国の方針として大学側に割り増し合格を厳しく制限する指示がなされたためと思われる。全国模試でAの評価をとった生徒も不合格が大量に出ている。 ○上記の国の方針により、MARCH以下の受験者にも大きな影響を与えた。結果的に29名の合格に留まることになってしまった。	○新3年生は、入学時より全体的に学力が低い状態であり、東大および旧帝大を目指す生徒は少ないが、きめ細かい指導により旧帝大を目指す可能性のある生徒を育てていきたいと考えている。そうした生徒を筆頭に全体を引き上げ、難関校合格を1人でも多く出すと同時に、中間層の引き上げも図りたいと考えている。 ○また、本校の特徴である、入学してきた時点より生徒の学習レベルを一つでも二つでもあげて、進路を実現させてあげることの実践とともに、本校に入学して良かったと、満足して卒業させられるように学校全体で取り組む必要がある。 ○現在の生徒の進路実現とともに、2020年度より段階的に変化する入試制度(推薦入試等も含む)を研鑽し対応策を取り入れていく必要がある。 ○また、部活動等を通じて進学を考える生徒も、大学で対応できる最低限の学力を身につけて送り出し、大学教育に対応できる生徒の数を増やしていく。 ○キャリア教育を充実させ進学意欲だけでなく、自己の将来を考えられる生徒を育成していきたい。
2	○安定した生活指導と校外でのマナー向上。 ○自転車マナーアップと事故防止。 ○いじめ問題の防止と発生時の早期解決。 ○インターネット犯罪防止の啓蒙 ○携帯電話のマナーアップ ○教職員・生徒のあいさつに対する意識の向上	生活指導 ○朝の校門指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○自転車マナーアップに取り組むとともに法改正を意識した指導の充実。 ○いじめ基本方針にもとづいた全校での取組。 ○携帯電話の使用法の注意。 情報セキュリティ講座の開催。 情報セキュリティ講座の開催。 情報セキュリティ講座の開催。 情報セキュリティ講座の開催。 ○学生生活の時間での心の育成、挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間の大切さ、社会でのマナーなどを訓戒する。	○頭髪・服装の乱れにより指導を受ける生徒が減少したか。 ○自転車マナーアップに関しては、イヤホンをしたまま運転をしている生徒がまだ数名おり、注意をすることがある。しかし昨年度の交通事故の原因をふまえ、危険予測トレーニングなどを実施した結果、今年度の交通事故は7件であった。昨年と比べると6件と事故の数は減少した。 ○今年度もアンケートを実施し早期発見に努めた。今年度はいじめ事案は0件であった。 ○インターネットトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○挨拶に対する教職員や生徒の意識が向上したか。	○頭髪服装面で注意を受けた生徒人数は延べ364名であった。前年度に比べ138名と、大きく減少した。 ○交通マナーに関しては、イヤホンをしたまま運転をしている生徒がまだ数名おり、注意をすることがある。しかし昨年度の交通事故の原因をふまえ、危険予測トレーニングなどを実施した結果、今年度の交通事故は7件であった。昨年と比べると6件と事故の数は減少した。 ○今年度もアンケートを実施し早期発見に努めた。今年度はいじめ事案は0件であった。 ○情報セキュリティ講座を実施するなど注意を促したが、SNSに他人の個人情報載せる、許可なく他人の動画をSNSにアップするなどのネットトラブルが発生した。 ○朝の校門指導を実施したが、挨拶に関しての意識向上は、不十分であった。	○未然防止のための生徒指導 ⇒日常的に生徒の様子をよく観察し教員間の連絡を密にする。ネットに関しては教員側が積極的に情報を集める。 ○自主自律の精神を身に付けさせる ⇒高校生として正しく判断する力を身に付けさせることにより、公共の場でのマナーや交通マナー、インターネットマナーなどを向上させる。時間を守らせる。挨拶を徹底させる。 ○教員間の一貫性のある生徒指導の実施 ⇒その場指導に徹底し、指導を後回しや他人任せにしない。 ○生徒の個性に対応した生徒指導の実施 ⇒コミュニケーションを大切にし、様々な生徒に対応した厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。
2	○生徒の学習に対する意欲向上 ○生徒の進路実現のための授業を工夫しながら行う。 ○長期休業に予備校の教員向け研修会に参加し、指導力の向上に努める。 ○進路を意識して自ら学習する(校内・家庭)よう指導している。 ○ICTの推進。 ○各教科でのキャリア教育からみたねらいに基づく実践	授業改善の取組 ○アクティブラーニング・ICTをテーマにした公開授業の推進。 ○各種のスキルアップ講座への参加 ○生徒への「授業アンケート」の全教科実施。 アンケート結果の各教科目標値設定 ○アクティブラーニングなどの先進的授業やICTを駆使したより効率的・効果的な授業展開の研究。 ○各教科、習生、課外活動での各活動におけるキャリア教育の実践	○公開授業の経験が授業に活かされたか、スキルアップ講座が活かされたか、公開授業や「授業アンケート」に反映されたか。 ○生徒の授業に対する意識が高まったか。 ○家庭学習が定着するか。 ○本校の生徒に適したキャリア教育が実践できたか。	○21名の教員が公開授業を行った。 ○11名の教員がスキルアップ講座に参加した。 ○公開授業はICTやアクティブラーニングをテーマにした工夫した内容が見え、通常の授業の中で充実とまでは至っていない。 ○学校に登校して勉強するように奨励しているためか、学校で勉強する時間が多い。家庭学習の時間は、短いが定着している。 ○キャリア教育の位置づけは、各教科におけるシラバスに狙いが設けられた。また、各コースごとの全体計画が完成した。	○ICT・アクティブラーニングをテーマにした公開授業の積極的実施。 ○予備校スキルアップ講座以外の外部講習にも積極的に参加し、指導力向上を図る。 ○家庭学習を定着させるよう面談を継続する。 ○授業アンケートの目標値設定とまとめ ○ICTを活用し理解度を高める研究をする。 ○高大接続・新学習指導要領を視野に入れた各教科の研究を実施する。 ○キャリア教育を意識した各教科での具体的活動。 ○英語4技能の指導充実のため外国人教師を増員する。
3	○本校生徒の活動、成果、教育実践を保護者、中学生、地域への情報提供を積極的に図っている。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出しを行っている。 ○学校自己評価シートの公開。 ○生徒へのスクールライフアンケートや生徒会と連携し、必要な意見を吸い上げる。 ○様々な分野における地域との連携強化	開かれた学校づくり ○年3回「第一高通信」の発行。 ○年5回の中学校訪問。 ○HPを適宜更新し、情報を発信する。 ○体験入学会、体験入部会の実施。 ○学校内外での本校独自の説明会の実施。 ○地元社会体育団体への施設開放 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○部活動による地域貢献の一環として、定期的な駅前清掃を実施。	○計画通りに「第一高通信」が発行できたか。 ○HPの情報が更新され閲覧者が増えたか。 ○体験入学会参加目標人数1000人を達成できたか。 ○地域社会との交流の機会が増えたか ○学校説明会参加目標組数750組を達成できたか	○計画通り年3回「第一高通信」を発行した。 ○HPの更新は概ね滞ることはなかったが、募集活動の繁忙期には更新が遅れることがあった。 ○体験入学会の参加申し込み人数は1058人で実際の参加人数は984人であった。 ○昨年度にも増して地域のイベントへの参加依頼が増え、部活動・生徒会の活動を中心に積極的に参加した。また桐華祭は地域からの評判が高く3645人の来場者を迎えた。 ○学校説明会の参加組数は557組で目標の750組を下回った。 ○地元体操クラブ・剣道クラブへの施設開放。	○年3回「第一高通信」の作成 ○年5回中学校訪問 ○校内の様子や伝わるHPの作成・工夫、毎日更新 ○校外での本校独自の説明会 ○S類型独自の説明会 ○体験入学は説明会・保護者を増やすため従来の広報活動に加えWebを使った広報活動を加える ○説明会の環境整備・充実 ○地域・保護者への施設の開放 ○地域・警察・地元企業による催事への参加 ○引き続き地元青年会議所との連携を図る ○引き続き部活動による社会貢献を行う。 ○スクールアンケートの実施 ○引き続き新コース・新システムの積極的なPRを行う

学校関係者評価	
実施日令和元年5月末日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○子供達の努力や先生方との信頼関係により、より高いレベルの学校を目指してほしいと思います。部活動との両立も大変だと思いますが、将来のことを考えさせながら一人一人の生徒と寄り添いながら、頑張ってくださいと思います。	○大学入試は前年度の実績と目標を下回ってしまいましたが、原因の解明と対策が必要だと思います。各大学側も、生き残りをかけて大きく変化してきているようですので、生徒への適確な進路指導を丁寧に行ってくださいようお願いいたします。また、運動部や文化部の部活動の活躍成果も、本校の大きな魅力でありますので、文武両道のご指導をお願いします。
○生徒が自身の学力を常に把握できることが、不安のない進路選択に繋がると思います。その為、希望する大学の情報や進学後を踏まえた授業や教員からのアドバイスが求められると思います。授業以外の部分をいかに埋めるかが課題となってくるほか、モチベーション向上のため模擬試験等の実施も有効であると思います。	○大学入試対策の他にも、各種検定合格に向けた勉強や面接練習などでもサポートしてくださって助かります。
○模試・GTECが予定として組み立てられているおかげで、自分の学力の位置がよくわかり、学習のペースや内容を定める参考になりとても助かっています。	
○この取り組みは大変な努力が要求されると思いますが、日頃からの積み重ねにより成果が出ている事に頭が下がります。	○昨年年度市内の中学生の自転車死亡事故がおきました。自転車の危険性を再認識させていただければありがたいです。
○頭髪服装検査で注意を受ける生徒が減少したことは良いことだと思います。	○生徒は校外を問わずしっかりと挨拶ができていますと感じています。継続して習慣付けをしてほしいです。
○いじめ事案は表面化しないことも必ずあると思いますので、生徒の変化を見逃さないように、アンケートだけではなく、日常生活のなかで、教員と生徒との信頼関係を大切にし、早期発見・解決を心掛けていってほしいと思います。	○生徒が授業や部活動に専念し不祥事を起こさぬよう、自覚を促していただけたらと思います。
○生徒が授業や部活動に専念し不祥事を起こさぬよう、自覚を促していただけたらと思います。	○携帯電話やSNSの利用方法は生徒の方が詳しいため、教職員の理解を深めたいうえで指導していかねばならないと考えます。
○「マナーに関しての苦情が減った」というのを聞きましたが、自転車でのマナーはとても良いと思います。	○若草保育園の近くでしっかりと車に気を付けるという意識ができてきたと思います。
○インターネットのマナー、トラブルについては自分の周囲では特に問題ないようでした。	
○素晴らしい取り組みだと思います。続ける事で学生も教師もスキルアップしていくと思いますので、継続してください。更に、外国人留学生との交流も良いかも知れません。	○学校でたくさん勉強しているのに家で家庭学習を行っている生徒がいるなんて素晴らしいことだと思います。先生たちもレベルアップを図るために努力していると思います。だからこそ、時間がなくても生徒と寄り添いながらお互いにレベルアップできることを期待しています。
○教員の指導力向上は、喫緊の課題だと思います。ICTを本校の特色として打ち出せるように、改善工夫をお願いします。	○高大接続・新学習指導要領を視野に入れた各教科の研究を実施する。
○授業改善については取り組んでいると感じています。ただ、目的は結果を出すことだと思います。時代変化や環境変化が速まっているなかで、今後は改善や取り組みのスピードも大切だと思います。	○生徒が授業に「参加している」という意識が生まれ、意識・学力の向上が見込めると思います。
○分りやすいように工夫して授業をしてくださる先生が多くとてもありがたいです。分らなかった所などの補足ができるので、助かっています。	○時間目が入り込んでから自習時間が増え、苦手教科を自分のペースで進められるのが良いと思います。
○本校の魅力であるS特進・特進の魅力や部活動の活躍などを対外的にPRする事が足りないように感じます。フェイスブックなどSNSを含めた様々なメディアを駆使することで、近隣よりも魅力的な付加価値が付き、中学生の興味を高める効果もあると思います。改善策のスピードを上げて次々と課題が生まれるため次年度での成果を目標にすればよいと思います。	○地元との交流は、良い学校PRの発信になると思いますので益々社会貢献に取り組んでください。PTAによる親子参加なども良いかも知れません。
○多くの生徒が地域イベントに参加する中で、「礼儀正しさに感動した。」という声も聞いておりますので、良い伝統として続けていってほしいと思います。そして、地元の生徒が入学を希望するような働きかけが出来ること、より活性化するのは良いかと思っています。	○開かれた学校づくりは、他校と比べても積極的に進んでおり、地域との信頼関係づくりに繋がっていると思います。特にテニサーやテニス部や書道部などの活躍を頻りに目にする事ができ、多くの方に笑顔と感動を与えていると思います。
○「施設が古い」との声を耳にするため、計画的に改築できれば良いと思います。	○遠方の方からもパンフレット等の問い合わせもあるので、出願も含めWEB化にするのも効果的ではないかと考えます。
○部活動や生徒会を中心に、地域イベントへの参加が頻りに行われていると思いますが、その他の生徒の地域イベントへの参加機会が少ないような気がします。	○学校全体が積極的に地域との関わりを持つことや教職員個人の地域への働きが、開かれた学校づくりの一歩であると思います。
○行事を充実させ校外にアピールすることで地域との結びつきが深まり、学校への関心も高まることが見込めると思います。	

2019年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心を持ち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。
本年度重点目標	1 各類型コースの充実 2 学力の向上 魅力ある授業づくり 3 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献) 4 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員)	名
生徒	名
事務局	名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

		学校自己評価			年度評価(2020年3月31日現在)		学校関係者評価		
		年度目標			年度評価(2020年3月31日現在)		学校関係者評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日2020年5月末日	
							学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	新コース3年後の進路実現のための学力向上 ○S類 2学年S特進との連携した学力向上。 教員からのアプローチだけでなく、2年生が指導・アドバイスを出来る形を形成。 ○A I 今までの特進での指導を踏襲しながら、上位校合格の学力を身につけさせる。推薦を希望する生徒であつても基礎学力を身につけさせて上で進学をさせていく。 ○A II 定期試験での点数取得だけでなく、知識の蓄積を目標として推薦にも一般受験にも対応させる。 2・3年生の大学進学希望者としてどう対応するか。 ○S特、特進(目標) 合格できる大学より行きたい大学への合格を目指す。さらに入学時の目標を下げず、上げられる指導をしていく。 ○特総(目標) 推薦でも一般受験でも大学受験が可能なる力を身につけさせ、よりよい進路実現の可能性を高めていく。 ○α、β(目標) センター試験 一般入試 AO 推薦入試、就職など様々な進路希望に対応していく。多様な入試に対応するため小論文指導面接指導の充実を図る。さらに部活動など得意分野での進学実績の拡大を目指す。 ○2021年大学入試に向けての研究 ○推薦による大学進学をした生徒であつても、進学先での授業に対応できる力を身につけさせる。	進路実現への取組(各コースの目標や予定された補習・行事を行う)	○新入試制度への対応のため、ICTを活用して生徒に情報と学習内容を提示していく。 ○ICTによるアプリを利用して「スタディ・サプリ・イングリッシュ」等を導入。英語4技能の向上を図る ○S特、特進は放課後の補習、個別指導、休日補習、長期休業中の補習の充実。 ○受験サプリの導入。 ○GTECやTEAP、英検、漢検の資格取得に努めAO入試、推薦入試対策とする。 ○βは平日の希望者補習、長期休業中の補習を実施。 ○公務員模試の実施。 ○AO入試、推薦入試に対応する講座、模擬試験の実施。 ○国公立大学のAO入試や公募推薦などの研究。 ○2021年大学入試へ向けての研修等への参加。 ○部活など得意分野での進路指導強化。 ○学力が担保される推薦基準の研究と見直し ○各教科、学力の定着を見ながらの指導実践 ○教える側教員の指導力・知識の向上のため、研修会の充実および入試問題の研究。	○旧帝大合格2名以上をめざす。 ○国公立合格8名以上。 ○早慶上理合格8名以上、GMARCH合格40名以上。 ○センター試験、一般入試での合格率の向上。 ○AO入試、推薦入試合格率の向上 ○行きたい大学に合格できたか。					
2	○未然防止のための生徒指導 ○自主自律の精神を身に付けさせる ○教員間の一貫性のある生徒指導の実施 ○生徒の個性に対応した生徒指導の実施 ○挨拶に対する教職員や生徒の意識の向上 ○いじめ問題の防止と発生時の早期解決	生活指導	○日常的に生徒の様子をよく観察し教員間の連絡を密にする。 ○情報セキュリティ講座を実施する。 ○薬物乱用防止教室を実施する。 ○集会では事例を挙げての訓話を実施する。 ○その場での生徒指導を徹底する。 ○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。 ○朝の校門指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○いじめ基本方針に基づいた全校での取組。	○頭髪・服装の乱れにより指導を受ける生徒が減少したか。 ○安全にインターネットを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。 ○インターネットトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○自転車安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。 ○挨拶に対する教職員や生徒の意識が向上したか。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策がはかれたか。早期解決がはかれたか。 ○公共の場でのマナーは守れたか。					
2	○生徒の学習に対する意欲向上とそれに伴う成績の向上。 ○校内での成績と全国模試の成績をしっかりリンクさせる。 ○生徒の進路実現のための授業を工夫しながら行う。 ○長期休業に予備校の教員向け研修会に参加し、指導力の向上に努める。 ○進路を意識して自ら学習する(校内・家庭)よう指導している。 ○将来の向けてのICT活用の推進。 ○各教科でのキャリア教育からみたねらいに基づく実践	授業改善の取組	○ICT・アクティブラーニングをテーマにした公開授業の推進。 ○通常の授業内でもタブレットを活用する ○タブレットを活用した学習指示や課題提出 ○各種のスキルアップ講座への参加 ○生徒への「授業アンケート」の全教科実施。 アンケート結果の各教科目標値設定 ○アクティブラーニングなどの先進的授業やICTを駆使したより効率的・効果的な授業展開の研究。 ○各教科、響生、課外活動での各活動におけるキャリア教育の実践	○公開授業の経験が授業に活かされたか、スキルアップ講座が活かされたか公開授業や「授業アンケート」に反映されたか。 ○生徒の授業に対する意識が高まったか。 ○生徒の学力が向上し、定期テストや模擬試験等により反映されたか ○家庭学習が定着したか。 ○本校の生徒に適したキャリア教育が実践できたか。					
3	○本校生徒の活動、成果、教育実践を保護者、中学生、地域への情報提供を積極的に図っている。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出しを行っている。 ○学校自己評価シートの公開。 ○生徒へのスクールライフアンケートや生徒会と連携し、必要な意見を吸い上げる。 ○様々な分野における地域との連携強化	開かれた学校づくり	○地元社会体育団体への施設開放 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○部活動による地域貢献の一環として、定期的な駅前清掃を実施。	○地域社会との交流の機会が増えたか					
4	○本校生徒の活動、成果、教育実践を保護者、中学生、地域への情報提供を積極的に図っている。	生徒募集・広報活動	○年間3回「第一高校通信」の発行。 ○年6回の中学校訪問。 ○体験入学会、体験入部会の実施。 ○学校内外での本校独自の説明会の実施。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○HPを適宜更新し、情報を発信する。	○計画通りに「第一高通信」が発行できたか。 ○HPの情報が更新され閲覧者が増えたか。 ○体験入学参加目標人数1000人達成できたか。 ○学校説明会参加目標組数751組を達成できたか					